

C 国語問題

注意

- 一 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
- 二 解答用紙はすべて黒鉛筆または黒芯のシャープペンシルで記入することになっています。黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- 三 この問題冊子は20ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号は一〜三となっています。
- 四 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
- 五 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
- 六 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷ついたりしないように注意してください。
- 七 この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

- 一 マークは、左記の記入例のように黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
- 二 一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
- 三 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきらずはきれいに取り除いてください。

マーク例

①
○ 1
○ 2
● 3
○ 4
○ 5

(3と解答する場合)

一 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

功利主義は「最大多数の最大幸福」という有名なフレーズで知られている。この言葉を発したのは、一八〇一
九世紀の英国の哲学者であり、功利主義の創始者であるジェレミー・ベンサムである。

まず注意が必要なのは、ここでいう功利主義とは、もっぱら自分の個人的な功績や利益の追求を第一とする利
己主義とは全然ちがうことだ。むしろ、それは共同体の集団的な価値の最大化をめざしている。「最大幸
福」というのは、共同体メンバーの幸福度の総和といった意味にほかならない。

幸福度とはいったい何か、幸福の程度を測れるのか、という疑問の声があるかもしれないが、いちばん分か
りやすい例は、多数決で何かを決めるといった場合である。数名のグループ旅行で観光スポットに立ち寄るとき、
時間をかけて低料金のバスで遠回りするか、お金はかかってもタクシーで直行するか、いずれかの選択に幹事が
迷うとしよう。メンバー全員に挙手してもらい、多いほうを選ぶのが功利主義的な考え方である。高いタクシー
代を払うのが苦痛な人もいるし、お金を払っても観光に時間をかけることが快樂だという人もいて、それぞれの
個人的な幸福度が投票の挙手に集約される。だから投票結果にしたがうのが、グループ全体の幸福度を高めるは
ずなのだ。このように、²⁾いわゆる民主的な決定は、多くの場合、功利主義にもとづいていると考えられる。

ここで、「最大多数」とは何かといえは、それは³⁾共同体のメンバーを平等にあつかうということである。たと
えば大昔の王国なら、王様や貴族の快樂が平民の快樂より重視されていた。つまり王国のメンバーだから誰でも
ひとしく一人一票というわけにはいかない。集団の幸福度を算出するとき、構成メンバーのあいだに重みの区別
をつけないというのは、封建時代にはない近代的な正義であり価値観である。さらに、幸福度を最大化するとい
う発想には、啓蒙時代特有の合理的、数理的な精神が反映されている。

こういう近代の合理主義は、むろん二一世紀の今日まで受け継がれている。何か政策的な決定をくだすとき、

執行機関が人々を説得し正当性を主張するために官庁や企業でよくおこなわれている費用効果分析は、あきらかに功利主義的発想にもとづくものだ。

これは、ある政策をとることが集団にたいして結果的にもたらす便益つまりプラス効果と、そのために必要な費用（コスト）を分析し、その比率を最大にするのが正しい選択だ、という考え方である。たとえば、川沿いにある村落全体の福利を向上させるために、村役場の担当者が、村の近くに新しく橋をかけるか、それとも隣村の既設の橋まで迂回する自動車道路を敷設するかを選択するときには、事前の調査として費用効果分析をおこなうことになる。比率が高い方を選ぶのが、村民全体にとって「正しい」選択というわけだ。

ここで二つのことを指摘しておこう。第一に、功利主義はいわゆる「帰結主義 (consequentialism)」の一種である。つまり、倫理的判断の正しさは、選択行動を実行するときではなく、その選択がもたらした帰結（結果）に応じて、事後に定まるのである。だから誤った判断になる可能性もある。

村役場の担当者は事前に費用と便益をいろいろ算定するわけだが、当然、予測は一〇〇パーセント正確ではない。倫理というのは決断の時点での根拠をあたえるものだとするれば、帰結主義は倫理として不適切だという批判もできるだろう。とはいえ、やむをえないという反論もできる。人間にとって厳密な未来予測は不可能なのだから、合理的なのはせいぜい、できるだけ正確な予測のもとに行動すること以外にはない。こうして、現代のほとんどの公的選択において、実際には、功利主義的な分析が多用されているのである。

しかし、功利主義にかかわる第二の点は、倫理として致命的な欠陥となりうる。それは、功利主義が個人の権利や利害ではなくあくまで集団の利害を優先させる、ということだ。むろん、功利主義自体は集団の意思決定ばかりではなく、個人の意思決定にかかわる基準にもなるのだが、そのときも個人は自分の属する集団の利害を優先させるのである。したがって、個人が犠牲になることも無いではない。

たとえば、費用効果分析によれば、新たな橋の建設より迂回する自動車道路の敷設のほうがずっと望ましいとしても、そのために村民のいくつかの家屋を潰さなくてはならないこともある。たとえ古い陋屋ろうおくでも、居住者に

とっては掛けがえのない思い出がまった家なのだ。村全体の福利につながるからといって、個人の基本的な権利を踏みにじってよいのか。すべての選択において功利主義を徹底すると、「会社を潰さないために従業員は倒れるまで働くべきだ」という判断すら倫理的と見なされかねない。

要するに、あくまで個人の基本的権利を守ることが正義だと考えれば、功利主義はのぞましい倫理道徳とならないのである。

(西垣通・河島茂生『AI倫理 人工知能は「責任」をとれるのか』による)

問

(A) 線部(1)について。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 功利主義は自己利益の主張を強く禁止するが、利己主義はその点に寛容である。
- 2 功利主義は個々人に対し、共同体に対して害をなす利己主義者を排除しよう命ずる。
- 3 功利主義は自己利益の最大化ではなく、むしろ共同体全体の利益の最大化を目指す。
- 4 功利主義においては、共同体の集団的な価値が個人の自己利益と一致しえない。
- 5 功利主義は個人の幸福度を合算できるという前提に立つが、利己主義はそうでない。

(B) 線部(2)について。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 民主的な決定といっても、強い政治力をもつ少数者の選択が公共的とみなされることが多い。
- 2 民主的な決定は往々にして、個人的な幸福度を数値化するという機械的・客観的な作業を要求する。
- 3 民主的な決定においては、個々人の選択が他のメンバーの投票行動に影響されがちである。
- 4 民主的な決定が採用されるのは、共同体メンバーの選択にあまりばらつきがない場合である。
- 5 民主的な決定はしばしば、個々のメンバーの幸福度を足し合わせるという多数決の形態をとる。

(C) 線部(3)について。これは具体的にはどのようなことか。句読点とも三十字以内で説明せよ。

(D) ——線部(4)について。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 選択の帰結を確実に予測する方法がない以上、事後的に誤りと判明した判断も合理的とみなす必要がある。
- 2 功利主義よりも正確に未来を予測する倫理思想がない以上、公的選択において功利主義をとるしかない。
- 3 帰結主義と倫理は相容れないともいわれるが、それは科学の進歩による予測能力の向上を過小評価している。

4 事前に合理的な判断を追求しても事後的には誤りとなりうるため、公的選択から倫理を排除すべきである。

5 社会全体の価値を最大化しようとすると、結果的に個人が犠牲になることもあるが、それは仕方がない。

(E) ——線部(5)について。その理由として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 他の倫理思想は倫理の本質を明らかにするが、功利主義は幸福の総計の最大化が倫理的である根拠を示さないから。
- 2 功利主義は、個々人が全体の利益を自己利益より優先するはずであるという、非倫理的な前提を置いているから。
- 3 人が感じる幸福の度合いには差があるにもかかわらず、功利主義はそれらを等しく扱うことでむしろ差別的となるから。

4 倫理が個人の権利の擁護を要求するなら、個人の犠牲のもとに集団利益を実現する功利主義は倫理とならないから。

5 本来、社会は個人の幸福を実現するために存在するにもかかわらず、功利主義においてはその関係が逆転するから。

(F) 次の各項について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。
イ ジェレミー・ベンサムがいう「最大幸福」とは、個人の自由の保証を意味する。

ロ グループ旅行の際にバスとタクシーのいずれを使うかは、功利主義的に決すべきである。

- ハ 王様や貴族の快樂が平民の快樂より重視されるところでは、功利主義的決定が成り立たない。
- ニ 今日、政策的決定を正当化するために用いられる費用効果分析は、功利主義の系譜に属する。
- ホ 功利主義はあくまで集団の意思決定を律する基準であり、個人の選択にかかわる基準とはならない。

二 左の文章は、アフリカ大陸のある村に二十年以上にわたって通い続けている筆者の経験に基づく論考の一部である。これを読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

村には電気や水道などというものはないので、日が暮れるとさつと暗闇の世界になる。使用済みの缶に灯油をいれ、ぼろ布を差し込んで芯にした簡易ランプが、唯一の光源だった。これがろうそくよりもか細い明かりを灯してはいるものの、一步小屋の外にでると、あたりの草むらを飛び交う無数の蛍と、今にも落ちてきそうなどという表現がコチヨウとは思えないほどの満天の星空に、心惹かれる。すぐそばの森を徘徊するといふ豹とハイエナのこと(イ)を思えば少々怖いが、草むらに横たわって空を見上げる誘惑に勝てるはずもない。

私はその村にそもそも何をしにいったのだろうか。「異文化の知恵を学ぶフィールドワーク」をするためといったら格好つけすぎだろうか。人文学という学問分野は、人間の生の営みの総体を対象とする幅広く、そして奥深い世界だ。人間があつまって、それぞれの場所できりあげる社会生活の知恵の体系を文化といってもよいが、その文化の多様性は、私たちの想像を絶するほどバラエティーに富んでいる。一人前の大人とは誰か、男と女はどこが違うのか、生き甲斐や幸せとは何か、という人間の実存にかかわる大問題から、異なった意見をどのよう調整するのか、人を傷つけたらどのようにして償うのか、といった社会を成り立たせるための技法に関するものまで、人類文化の多様性には ものがある。

この文化の多様性こそは、長い間、私たちの好奇心を刺激してきた。実際、異文化にふれあうときの、はらはらどきどきした感触は、誰もが経験したことがあるだろう。自分と異なったものに出会うとき、人は素直に驚き感動するかもしれないし、羨ましさやネタまじしさを感じたり、蔑みや嫌悪の感情を抱いたりすることもある。これは「自然」な感情だ。ただその感情にとどまるだけでは、通り一遍の旅行者の感想と変わりはない。もう一歩すすんで、これらの「異質」さを理解しようというのが、人文学の挑戦になる。

ではこの異文化の多様性を、把握したり理解したりするにはどうしたらよいのだろうか。もちろん、その社会

で用いられる文字で書かれた記録を解読したり、その社会の自然環境を精密に測定・分析したりすることも方法の一つである。しかし、人文学にはもう一つの方法がある。それがフィールドワークという方法だ。それは、直接その異世界に入り込み、その社会の人々が食べるものを食べ、彼らが参加する行事に加わり、ともに暮らしを営むなかで、自分の五感をフルに活用して、人間活動の総体をまるごと理解しようとする、言ってみれば八方破れなやり方である。もちろんこれには、科学的ではないとか、客観性に欠けるという非難はつきものだった。だが、知らず知らずに自文化の方法や基準をもとにして「理解」した気になりがちなのだが、想像を超える異文化の多様性にチャレンジするためには、このいつけん、めちゃくちゃな方法も結構有効なのである。はじめは「無駄」だとか「無意味」と思われていたものが、そのなかで暮らしはじめてみると、じつに「意味」深く「便利」なものであることに気づく。私たちが自明のものとしている世界とは、まったく別のシステムで動いている社会を理解するには、自分自身をまるごとそこに投げ入れるフィールドワークという方法は役にたつものなのだ。こうして私たちは、異文化理解という魅力的な世界の入り口にたつことができるようになった。

しかしさらに考えてみると、ことはそうかんたんではない。なぜなら、こうした異文化の多様性は、じつは強力な一つの基準をもとに序列化され優劣化されていることに気づくからだ。それは人文学そのものももっているある種のイデオロギーと深く関わっている。つまり、文字を持ち、過去を文書で記録している社会は、進んだ優れた文明世界であり、文字を持たず、過去の文書記録を持たない社会は、遅れた未開な世界であるという信念が、人文学の当然の前提として成立しており、それを基準にして、多様な異文化を単純な優劣軸上に位置づけてきた歴史が指摘できるのである。たとえば伝統的に文字を持たなかったアフリカ社会は、この優劣軸からすれば、もっとも遅れた社会に属するがゆえに、人文学の対象からははずされてしまった。文字記録がないところに、歴史や文学、哲学は成立しないと断定されてきたからだ。

たしかに文字に書かれたものをもとにして、実証的な歴史学は成立し、文字によって、人間の本性を描く文学作品が形になり、文字を媒介にして哲学は人間とは何かを語ることができるようになった。しかし、ここで確認

しておかなければならないのは、文字を持たない社会においても、当然、人々は日々懸命に生を営んできたという事実である。付言すれば、アフリカにもバムン（カメルーン）やドゴン（マリ）のように文字を発明した社会もあるし、イスラムとの接触によって一千年以上も前に文字は流入してきた。しかしアフリカ社会において文字が使用されることはなかった。ということは、アフリカ人は文字を知らなかったのではなく、文字使用を選択しなかったのである。

アフリカ人が選び取った無文字社会にも、過去は存在し、歴史は存在する。それらの社会にも人間の喜怒哀楽があり、それを表現する文学作品がある。そしてこれらの社会にも、人とはそもそも何であり、どのような生が望ましいかについての倫理や哲学があった。吟遊詩人が詠じる壮大な歴史叙事詩は、そのまますぐれた文学となるし、十世代前におきた事件を克明に語り伝える語り部は、そのまま村の歴史家だった。さらに太鼓のリズムと強弱の拍子に過去の記録を精密に記録することすら行われた。あるいは、異なった文化慣習をもつ多様な小集団を、一つの地域社会のなかで共生させていく知恵は、複雑で巧妙な生活思想の反映でもあった。すなわち、未開のレットルを貼られ人文学のメインストリームから暴力的に排除された無文字社会にも、文字以外の媒体（人間の身体や声、太鼓の音など）を駆使して、歴史や文学や哲学は生まれ発展していったのである。

⁽¹⁾ この当たり前のことは、十六世紀から二十世紀にかけての五百年のあいだに、きれいに無視され、文字を持った世界が持たない世界を支配し奴隷化することを正当化してきた。その五百年は、近代人文学がヨーロッパに誕生した時期でもあった。いま、かつての無文字社会の文化について研究することは、こうした人文学のイデオロギイの偏向に挑戦することでもある。人文学が人間の生の営みの総体をまるごと対象にする学問であるためには、文字以外の媒体に刻まれた歴史や文学、哲学の世界を、人間の五感を活用したフィールドワークという方法で学びとる作業が必要になる。

たとえば私は、村に住むある一族の歴史をたどったことがある。移住の経路を逆にたどり、十九世紀から二十世紀にかけての一族史を、口頭伝承をもとに再構成した。⁽²⁾ そのなかで驚かされたのは、彼らが頻繁に民族アイ

デンティティを変更し、行く先々で別の民族に変貌していく姿だった。彼らは新たな土地に移住するたびに、系統の違う言葉を話し、異なる文化慣習を受容していた。こうしたアイデンティティの構築過程は、私たちが自明のものとしている固定的で変更不能な民族意識とは根本的に異なるものだ。アフリカ社会が育んできたルーツで柔軟な浮遊する民族意識は、民族間の絶対的対立を回避する巧妙な知恵でもあった。なぜならあちこちの民族にそれぞれ関係をもつ一族の間がはめこまれているわけだから、民族の垣根は著しく低くなり、民族間の全的対立など起こりようがないのだ。これが、アフリカ社会が伝統的に育んできたマルティ・カルチュリズム（多文化共生）の技法だった。

民族間の恒久的憎悪や非和解的対立が、冷戦終焉後の世界の新たな火種となっているこの時代において、アフリカ社会がかつて活用していた叡智の再評価と再創造が求められるようになった。私のささやかな村通いも、こうした叡智を丹念に掘り起こし、そこから学ぶための営みにつながればと願っている。

（松田素二「アフリカのフィールドワーク——人文学のもう一つの方法」による）

問

- (A) 〓 線部イ・ロを漢字に改めよ。（ただし、楷書で記すこと）
- (B) 空欄 に入る慣用句として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。
- 1 首をかしげる 2 鼻白む 3 身の毛立つ
- 4 耳を疑う 5 目をみはる
- (C) 〓 線部(1)について。「この当たり前のこと」の内容として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。
- 1 アフリカ社会は文字を持たず、電気や水道などのインフラも不十分だが、豊かな自然のおかげで生活思想や哲学を育んでこられたこと。

2 自分の身体と感覚を最大限に活用するフィールドワークは、文字以外のもので表現されてきた歴史や文学や哲学を明らかにできること。

3 無文字社会においても歴史や文学や哲学は醸成され、それらは太鼓や人間の声など多様な媒体を介して発展を遂げてきたこと。

4 文字記録がなければ歴史や文学や哲学は成立しないと断定し、無文字社会を劣位に置いてきた人文学のイデオロギー的偏向は、乗り越えられるべきであること。

5 文字を持たない社会では歴史や文学、哲学は成立しえず、ゆえに遅れた未開な世界であるという前提のもと、人文学がアフリカ社会を暴力的に排除してきたこと。

(D) ———線部(2)について。この「姿」を筆者はどう受け止めたか。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 新たな土地へ移るたびに言語や文化慣習を習得し、しきりに民族アイデンティティを変えることは、民族間の対立を避けるための知恵である。

2 口頭伝承から明らかになったルーズで柔軟な浮遊する民族意識は、筆者があたりまえだと思っていた民族意識と意外に近いものである。

3 固定的で変更不能だと信じて疑わなかった民族アイデンティティを、口頭伝承を通じて変化させ続けてきたことは驚異的である。

4 一〇〇年以上にわたる一族の歴史が口頭伝承によって正確に語り継がれていることは、にわかには信じられないことである。

5 民族アイデンティティを次々と変えながら生き抜いてきた一族の歴史は、民族意識を一貫したものとして自明視することの弱点を教えてください。

(E) フィールドワークに対する筆者の見解について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2とし

て、それぞれ番号で答えよ。

イ 異文化理解において、人間の生の営みを包括的に捉えようとするフィールドワークは、文書記録の解読や自然環境の精密な測定・分析よりも優れている。

ロ 人文学のイデオロギー的偏向が、本来は優劣のない文化の多様性を序列化してしまっていることを明らかにすることが、フィールドワークの目標である。

ハ 馴染みのない社会にまると自分を投げ入れるフィールドワークは無謀であるように思われるが、自文化の方法や基準を相対化し、異文化の多様性を理解するうえで大いに役立つ。

ニ 自分の感覚や感情を重視するフィールドワークは客観性に欠けているので、非科学的だという従来の評価は妥当なものである。

ホ 無文字社会で育まれてきた歴史や文学の探究は、五感をフル稼働させるフィールドワークによってこそ可能であり、ここには人文学の弱点を克服する契機が含まれている。

(F) 次の各項について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ アフリカには一千年以上も前にイスラムから文字が流入していたので、単に文字が存在しなかったから無文字社会になったとは言えない。

ロ 筆者がアフリカに通い続けるのは、美しい自然に魅了されていることに加え、冷戦終焉後の世界が抱える課題を解く手がかりを得られると期待しているからである。

ハ 文字を持つ世界による文字を持たない世界の支配を正当化するために、近代人文学はヨーロッパに誕生した。

ニ 私たちはみな見知らぬ文化に出会うと様々な感情を抱くものだが、そこで出会った文化の特質を理解しようとする点において研究者は旅行者と区別される。

三 左の文章は、『落窪物語』の一節で、落窪の姫君（君、女君、女）の暮らしぶりの一端が書かれている場面である。これを読んで後の設問に答えよ。（解答はすべて解答用紙に書くこと）

ほどは、十一月二十三日のほどなり。^(注1)三の君の夫の蔵人の少将、にはかに臨時の祭の無人にさされたまひければ、^(注3)北の方、手惑ひしたまふ。^(注4)あこぎ、論なう御縫物もて来なむものと胸つぶるるもしるく、表の袴裁ちて、^(注5)「これ、ただ今縫はせたまへ。御縫物出で来なむ」と聞こえたまふ」と言ふ。君は几帳のうちに臥したまへれば、あこぎぞ、。「いかなるにか。昨夜より悩ませたまひて、うちやすませたまへり。今、起きさせたまひなむ時に聞こえさせむ」と言へば、使帰りぬ。女君、「縫はむ」とて起きたまふ。「まろ一人は、いかにでつくづくと臥いたらむ」とて、起こしたてまつりたまはず。

北の方、「いかに。縫ひたまひつや」と問ひたまへば、「さもあらず。『まだ御とのごもりたり』と、あこぎが申しつるは」^(a)と言へば、北の方、「なぞの『御とのごもり』ぞ。物言ひ知らずなありそ。我らとひとつ口に、⁽⁴⁾なぞ言ふは。聞きにくく。あなわかわかの日寝や。しが身のほど知らぬこそ、いと心憂けれ」とて、うちあざ笑ひたまふ。

下襲裁ちて、持ていましたれば、⁽⁵⁾おどろきて、几帳の外に出でぬ。見れば、表の袴も縫はで置きたり。⁽⁶⁾けしきあしうなりて、「手をだに触れざりけるは。今は出で来ぬらむとこそ、思ひつれ。あやしう、おのが言ふことこそ、あなづられたれ。このごろ御心そり出でて、化粧ばやりたりとは見ゆや」とのたまへば、女、いとわびしう、いかに聞こえむと、我にもあらぬ心地して、「悩ましうはべりつれば、しばしためらひて」とて、「これはただ今出で来なむものを」とて引き寄すれば、「おどろき馬のやうに手な触れたまひそ。人だねの絶えたるぞかし。^(注8)かううけがへなる人に見言ふは。この下襲もただ今縫ひたまはずは、ここにもなおはしそ」とて、腹立ちて、投げかけて立ちたまふに、少将の直衣の、後のかたより出でたるを、ふと見つけて、「いで、この直衣はいつこのぞ」と立ちとまりてのたまへば、あこぎ、いとわびしと思ひて、「人の縫はせに奉りたまへる」と申せば、「ま

づ外の物ほかをしたまひて、ここのをおろかに思ひたまへる。⁽⁸⁾もはら、かくておはするに、かひなし。あなしらじらの世や」とうちむつかりて行く後手うしろで、子多く生みたるに落ちて、わづかに十すぢばかりにて、居丈みぢなり。⁽⁹⁾うちふくれて、いとをこがましと、少将つくづくとかいまみ臥したり。

女、あれにもあらで、物折注10る。少将、衣きぬの裾をとらへて、「まづおはせ」とひき責むれば、わづらひて入りぬ。

「憎注10し。な縫ひたまひそ。今少し、あらだてて惑はしたまへ。この言葉はなぞ。この年ごろはかうや聞こえつる。いかで堪たへはべらむ」とのたまへば、女、「山注11なしにてこそは」と言ふ。

(注)

- 1 三の君——落窪の姫君の異母妹。
- 2 臨時の祭——賀茂神社の臨時祭。
- 3 北の方——落窪の姫君の継母。姫君を使用人のように扱っている。
- 4 あこぎ——落窪の姫君に仕える忠実な侍女。
- 5 「これ、ただ今縫はせたまへ。御縫物出で来なむ」と聞こえたまふ——北の方の使者が来て北の方の言葉を伝えている。
- 6 君は几帳のうちに臥したまへれば——君は落窪の姫君を指している。姫君のもとに恋人の少将(三の君の夫の少将とは別人)が来ていて共に休んでいる。
- 7 まろ——少将の一人称。
- 8 人だね——縫い物をする人材。
- 9 わづかに十すぢばかりにて、居丈なり——髪の状態の表現。居丈は座ったときの身の丈。
- 10 物折る——縫い物を折ること。
- 11 山なし——身を隠す山がない。どこにも行くところがない。

問

- (A) ——— 線部(1)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。
- 1 できる限り縫い物の仕事をしなくてはならない。
 - 2 きつと縫い物の仕事を持ち込んで来るに違いない。
 - 3 争いを避けるために縫い物の仕事を引き受けよう。
 - 4 とりあえず縫い物の仕事を頼まれるだろう。
 - 5 せめて縫い物の仕事だけでも分担させてほしい。
- (B) 空欄 に動詞「いらふ」を最も適当な活用形で記せ。
- (C) ——— 線部(2)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。
- 1 眠りが浅くていらつしやつて
 - 2 縫い物でお疲れになつて
 - 3 祭に間に合うかご心配になつて
 - 4 ご体調が悪くなられて
 - 5 占いの結果に落胆なさつて
- (D) ——— 線部(3)の現代語訳として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。
- 1 申し上げます。
 - 2 聞こえるでしょう。
 - 3 お尋ねになるでしょう。
 - 4 お伝えしましょうか。
 - 5 お申しつけください。

(E) 〓 線部(a)～(c)の助動詞の文法上の意味として最も適当なものを、次のうちから一つずつ選び、それぞれ番号で答えよ。ただし、同じ番号を何度用いてもよい。

- 1 受身
- 2 打消
- 3 可能
- 4 完了
- 5 意志
- 6 断定
- 7 伝聞・推定

(F) 〓 線部(4)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 言葉遣いを知るわけではないだろう。
- 2 言葉遣いを知らないはずはないだろう。
- 3 言葉遣いを知らずにいてはいけない。
- 4 言葉遣いを知るのに遅いことはない。
- 5 言葉遣いを知らなくても気にしてはいけない。

(G) 〓 線部(5)は誰の動作・行為か。最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 北の方
- 2 三の君
- 3 あこぎ
- 4 姫君
- 5 少将(姫君の恋人)

(H) 〓 線部(6)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 あこぎの段取りがひどくて
- 2 天候が悪くなつて
- 3 姫君の顔色があおざめて
- 4 部屋が散らかっていて

5 北の方のきげんが悪くなって

(I) ——— 線部(7)が指している内容として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 北の方が姫君の言葉遣いをとがめたこと。

2 北の方が姫君に縫い物を命じたこと。

3 北の方があこぎに伝言を頼んだこと。

4 北の方が姫君に化粧を勧めたこと。

5 北の方があこぎに昼寝を禁じたこと。

(J) ——— 線部(8)の現代語訳を四字以内で記せ。ただし、句読点は含まない。

(K) ——— 線部(9)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 背をまるめながら

2 うっかりつまずきながら

3 怒って小言を言いながら

4 悲しい気持ちを表しながら

5 思わずくしゃみをしながら

(L) ——— 線部(10)について、このように述べた理由として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 姫君に対する三の君の配慮が不十分だったから。

2 姫君に対する北の方の言動がひどかったから。

3 北の方に対する姫君の態度が失礼だったから。

4 北の方に対する少将の愛情が足りなかったから。

5 少将に対する北の方の策略が予想外だったから。

(M) 次の各項について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 蔵人の少将は臨時の祭の舞人に任命されたが辞退した。

ロ 少将は縫い物に取り掛かろうとする姫君に手を貸した。

ハ 北の方は姫君のもとを訪れて縫い物の進み具合を尋ねた。

ニ 北の方の馬は臆病で驚いては人間を手こずらせた。

ホ 少将は立ち去る北の方の姿を横になったままのぞき見た。

【以下余白】

